

環境マスタープラン年次報告書

構成案

神戸市環境マスタープランとは

望ましい環境像 自然と太陽のめぐみを未来につなぐまち・神戸

計画期間：2016年度～2025年度

■ 計画の位置づけ

神戸市環境マスタープランは「神戸市民の環境をまもる条例」に基づき、神戸市の健全で快適な環境の確保に関する基本的な計画です。

神戸市基本計画と連携・相互補完関係にある環境部門の計画として位置付けられ、環境関連の個別計画とも連携を図っています。

■ 計画の構成



「望ましい環境像」を最上位とし、4つの基本方針、22の目標、基本施策・重点施策で構成されます。

■ 4つの基本方針

二酸化炭素の排出が少ない
くらしと社会を目指します。

資源を有効利用し、ごみが
できるだけ発生しない
くらしと社会を目指します。

生物が多様で
自然な恵みが豊かな
くらしと社会を目指します。

安全・安心で
快適な生活環境のある
くらしと社会を目指します。

計画を推進するにあたって必要な事項

すべての主体
の協働と参画

環境教育
環境学習

計画の
進行管理

2024年度 主要実績

市域全体の温室効果ガス排出量
(2013年度比)

33.3%
削減

(2023年度実績)

家庭系ごみ排出量
(2013年度比・1人1日当たり)

13.4%
削減

(2024年度実績)

神戸市で見られる生きものの種数

7,999種

(2020年度調査)

大気質・水質・土壌・騒音等の
環境基準達成状況

おおむね
達成

(2023年度実績)

未達成

目標値

2030年度までに
2013年度比60%削減

達成

目標値

2025年度までに
2013年度比10%削減

維持

目標値

神戸市で見られる生きものの種数
約8000種を維持

達成

目標値

環境基準等の達成

基本方針 1 二酸化炭素の排出の少ないくらしと社会をめざします

取り組み概況

■ 取り組み目標

	2013年度実績 (基準年度)	2030年度 目標値
市域の温室効果ガス排出量 (単位：千t-CO ₂)	12,392	4,597 (▲60%)
再エネ導入量 (単位：MW)	330	500

■ 実績

	2022年度実績
市域の温室効果ガス排出量	8,599 (▲30.6%)
再エネ導入量	344 (+37.6%)

■ 市域の温室効果ガス排出量の推移



■ 市域の温室効果ガス排出量部門別内訳

統計区分		2013年度 (基準年度)	2021年度 実績 (2013年度比)	2022年度 実績 (2013年度比)	前年度から の増減 (前年比)
二 酸 化 炭 素	産業部門	5,194	2,041 (▲60.7%)	2,495 (▲52.0%)	454 (+22.2%)
	業務部門	2,345	1,502 (▲35.9%)	1,774 (▲24.4%)	272 (+18.1%)
	家庭部門	2,078	1,524 (▲26.6%)	1,640 (▲21.1%)	116 (+7.6%)
	運輸部門	1,992	1,679 (▲15.7%)	1,756 (▲11.8%)	77 (+4.6%)
	廃棄物部門	266	277 (▲4.1%)	302 (▲12.3%)	24 (-8.7%)
合計		12,392	7,141 (▲37.5%)	8,599 (▲30.6%)	858 (+11.1%)

(掲載イメージ)

■ 市域の再エネ導入量推移（単位：MW）

2019 年度	2023年度 (2019年度比)	2024年度 (2019年度比)	前年度から の増減
250	330 (+32.0%)	344 (+37.6%)	+14 (+4.2%)

現状と課題

■ 現状

- 温室効果ガス排出量は、基準年度(2013年度)より30.6%減少、前年度より11.1%増加した。
- 産業、業務、運輸部門において最終エネルギー消費量が増加したことや、関西電力の二酸化炭素排出係数が増加(2021年度0.309→2022年度 0.420 [kg-CO₂/kWh])したことなどにより、前年度から増加したと考えられる。
- 廃棄物部門では、ごみ全体の量は減っているが、排出係数の大きいプラスチック類の廃棄物量が増加しているため、温室効果ガス排出量が増加したと考えられる。
- 再エネ導入量は、2019年度実績より37.6%増加、2023年度実績より4.2%増加している。

■ 課題

- 2050年カーボンニュートラルの実現を目指し、目標(2013年度比60%削減)を達成するためには、省エネルギーのさらなる徹底や、再エネの最大限の導入、新たな技術革新の推進等、あらゆる分野で、でき得限りの取り組みを進め、温暖化対策をより強力に推進していく必要がある。

基本方針1 二酸化炭素の排出の少ないくらしと社会をめざします

2024年度の主な施策・取組

■ 次世代自動車の普及啓発

- 次世代自動車等の啓発イベント（兵庫カーライフフェスタ、EV:LIFE KOBE）で啓発を実施



■ 市内中小事業者を対象とした脱炭素経営伴走支援事業

- ひょうご脱炭素経営スクール
2024年度 23事業者
- カーボンニュートラル経営支援事業
2024年度 8事業者
- セミナー等による啓発
2024年度 約6,500名

■ 住宅への太陽光発電の導入促進 （太陽光発電・蓄電池設備の共同購入事業）

契約締結数	2024年度	19件
	2023年度	17件

こうべCO ₂ バンク のクレジット創出 （2024年度）	太陽光	2,409 t-CO ₂
	エネファーム	4,842 t-CO ₂

■ 環境省交付金事業「脱炭素先行地域」の取組

- 2024年9月に採択
- 対象エリア内企業による省エネ・再エネ導入の促進（2025年度からの5年間で6MWの再エネ導入を目指す）



■ ペロブスカイト太陽電池の実証実験

（掲載イメージ）

設置
まで



■ クリーンセンターにおけるごみ発電（売電量）

売電量	2024年度	127,760,654 kWh
	2023年度	130,586,022 kWh
バイオガス発電 （売電量）	2024年度	10,677,952 kWh
	2023年度	5,731,776 kWh

■ こうべ油回収チャレンジ ～Kobe Fry to Fly Project～

- 2024年10月より市内4拠点で、家庭系廃食用油の回収を開始、持続可能な航空燃料（SAF）等として実証的に活用
- 2025年3月までで約800Lを回収



■ 水素サプライチェーン構築実証

- 製造、液化水素として国内へ輸送・貯留をする実証事業。2024年度は液化水素輸送船の国際基準改定に向けた、航行データの取得を行った。

■ 水素エネルギー利用システム開発実証

- 水素を燃料とする水素CGSの開発事業。2024年度は、液体水素の冷熱活用に向けた技術開発を継続して実施した。

